

科目名	ロシア文化論	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	アレクサンドル プラーソル		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-2-330003	国際学部B：高度な語学運用力をもって異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会において協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていること			
授業の目的	ロシアは西洋ではなく、東洋でもないのはしばしば口にされる言葉であるが、この国の文化に親しんでみると、知れはほんとうであると言わざるを得ない。明治以来、ロシア文学は日本で広く読まれてきたし、音楽やバレエ・絵画等も親近感をもって受け入れられてきた。このコースはロシア文化の多様な顔を紹介している。				
学修到達目標	現代ロシア社会と文化の基礎知識を身につけ、異文化理解を深めること。グローバルな課題に批判的な問題意識と建設的な目差しをもって向き合う実践的な態度を獲得し、国境を越えた個別具体の問題への認識を深める国際教養及び研究手法を体得していること。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	ロシアの地域形成とその特徴
第2回	ロシアの風土と社会
第3回	ロシアが直面する政治・経済・社会の諸問題

第4回	社会福祉と住宅文化
第5回	2000キロの船旅で見たロシア（ビデオ1）
第6回	2000キロの船旅で見たロシア（ビデオ2）
第7回	日常生活・住居・余暇・レジャー
第8回	伝統文化とロシア正教
第9回	社会を反映する祝日
第10回	ロシア人の国民性（その1）
第11回	ロシア人の国民性（その2）
第12回	外国人の目で見たロシア（ビデオ1）
第13回	外国人の目で見たロシア（ビデオ2）

第14回	ロシアの音楽文化
第15回	音楽の都市サンクト・ペテルブルグ（ビデオ教材）
第16回	期末レポート提出

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。前週配布資料を通じての予習
【復習】時間・内容	2時間。配布資料の見直しと不明点を調べ理解する。

成績評価	
評価基準・方法	課題(50%)と授業参加態度(50%)を合わせて総合的に評価する。
フィードバック方法	授業内小テストやレポートのフィードバックとして全般的な講評を行い、特に優秀な答案を公表する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	<p>使用テキストなし、毎回資料を配布し、PowerPoint presentationを利用する。</p> <p>参考書 ロシア 目で見る世界の国々68 国土者 2004</p> <p>原卓也著 ロシア新潮社 1997</p> <p>川端香男里著 ロシア その民族と心 悠思社 1991</p>
受講上の留意点等	<p>合格するには66%以上の出席が必要で、レポートの提出率は80%以上でなければならない。授業を休んだ生徒は自己の責任で資料をそろえること。</p>
JABEE	